

高田川新聞

2018年6月25日 発行
高田川部屋後援会事務局
〒135-0024
東京都江東区清澄2-15-7
www.takadagawa.com

※新規の後援会会員も募集しております。

大相撲 七月場所

平成30年7月8日より15日間

於トワイズアリーナ(愛知県体育館)

高田川部屋
七月場所 名古屋道場
愛知県名古屋市港区
東茶屋1-556

輝 再び上位挑戦へ

輝の意地

平成三十年の夏場所は、栃ノ心が十二日目で単独で連勝し、優勝は逃したものの十三勝で夢の大昇進を決めた。その栃ノ心を破った横綱・鶴竜が逆転で自身初の連勝優勝を果たし、横綱の意地をみせた。高田川部屋勢は、初日から全員黒星十敗と最悪のスタート。終わってみれば三場所ぶりに負け越しが大きく上回りに負け越しは現・高田川親方が部屋を引き継いでから一番少ない五名のみ。六場所連続勝ち越しを続け、部屋最高位に立った竜電が大きく負け越し、新十両の白鷹山は五勝止まりで一場所であまりから陥落。そんな暗雲立ち込める中、一番気を吐いたのは輝だった。



竜電 勉強の場所

初場所から幕内上がった竜電に明け渡した。その上、兄弟子は新入幕で十勝を挙げ、敢闘賞を受賞。幕内での二桁勝利と三賞まで先を越された。五月場所初日、このところ六連勝だった大翔丸に黒星を喫する。しかし、二日目の千代丸戦、翌嘉風戦で快勝してからは勝ち星が先行して五勝三敗で中日を折り返した。派手ではないが着実に力がついてきている。しかも明らかに変化もみえて、突き押し一辺倒の攻めから、左手の使い方や相手との距離感などの工夫も加味され、そのあとも相撲になってきている。

竜電は自己最高位で初日から四連敗。五日目に白星をあげるもさらに四連敗を喫し、九日目にはあっさり負け越しが決定。国技館の大きな歓声が悲鳴に変わる。今年初場所、新入幕で阿炎とともに敢闘賞を受賞。一気に竜電人気が高まった。大阪場所も序盤のつげを最終五連勝で取り返して千秋楽に勝ち越しを決めた。しかし、魔物は知らず知らずのうちに忍び寄っていた。竜電の相撲は、立ち合いの速攻から両差しを狙って攻め込む相撲。大阪場所では、勢よく飛び込む立ち合いを狙って土俵際の変化も喰った。その残像が頭にあったのか、落ち着いた立ち合いが目立ち、その結果、スピード感のある鋭さが消え、攻めきることができないまま、体の厚みも重量もある幕内力士たちに力負け。負けがこむと精神的にも余裕がなくなり、焦りが出て、勝てる勝負にも勝てない。「自分受ける相撲では勝てない」

緊張から初戦から二つ星を落とし、ようやく三日目の朝弁慶戦に勝って白鷹山は関取としての初白星を挙げた。念願だった関取昇進とはいかに大変なことか思い知ったに違いない。四月二十五日に新十両が発表されてから慌ただしい日々が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。

白鷹山の試練と再挑戦。緊張から初戦から二つ星を落とし、ようやく三日目の朝弁慶戦に勝って白鷹山は関取としての初白星を挙げた。念願だった関取昇進とはいかに大変なことか思い知ったに違いない。四月二十五日に新十両が発表されてから慌ただしい日々が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。取材や挨拶が過ぎていく。

力士たちの蛹化。白鷹山が湘南乃海の迫り上げに刺激を受けたように、幕下では安芸の花、安芸乃山のツイーンもこの弟子弟子たちに刺激されて、五月場所共に五勝して二場所連続の勝ち越しを決めた。二人の課題は、引いたり叩いたりしないこと。安芸乃山は、大きな体を活かして、前に出る相撲を意識して攻めた。また安芸の花は、伝家の宝刀・右上手投げで次々と相手力士をぶん投げていく。圧巻は、勝ち越しを決めた豊響戦。一時体調を崩したとはいえ、幕内で三三七勝もあげている巨漢の豊響を右上手一本で仕留めた。

幕下陥落は免れる番付。だが、期待も空しく四連敗して十二日目は負け越しが決定。後半七日間の二勝は遠く、結局は五勝十敗で、名古屋は出直しの場所となった。白鷹山の相撲は、立ち合いの鋭さに磨きをかけ、竜電本来の持ち味である思い切りよく攻めまくる相撲で館内を沸かしてくるに違いない。

三役は先上がる。決意の言葉を現実とする。輝の意地のかかった熱い戦いから目が離せない。

三役は先上がる。決意の言葉を現実とする。輝の意地のかかった熱い戦いから目が離せない。



輝の意地

三役は先上がる。決意の言葉を現実とする。輝の意地のかかった熱い戦いから目が離せない。



白鷹山 新十両昇進祝賀会



三役行司 式守勘太夫の目

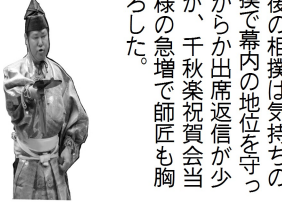
三役行司 式守勘太夫の目。東京場所恒例だった高田川部屋での千秋楽祝賀会。三人目の関取誕生で部屋は手狭となり、原宿の中華料理店に会場を移して開催された。六場所連続勝ち越しの竜電は、取り直しや物言いの相撲を落

さ口にしていた。知らず知らずのうちに疲労が蓄積していたのかもしれない。白鷹山らしい相撲が取れない。新十両らしい勢いもない。しかし、これらはいかにしかならず、どの関取も通る道。なんとか中日までは四勝四敗の五分の星で後半戦の相撲に期待がかかる。春場所での六勝が効いて最低でもあと二勝すれば幕下陥落は免れる番付。だが、期待も空しく四連敗して十二日目は負け越しが決定。後半七日間の二勝は遠く、結局は五勝十敗で、名古屋は出直しの場所となった。白鷹山の相撲は、立ち合いの鋭さに磨きをかけ、竜電本来の持ち味である思い切りよく攻めまくる相撲で館内を沸かしてくるに違いない。

幕内	幕下	三役目	序二役	序一役	序ノ口	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下
輝	竜電	白鷹山	安芸の花	湘南乃海	安芸乃山	大衆	大雷童	大野城	恵比寿丸	須磨ノ海	剛力山	前乃富士	勝武士	暁	前大將	櫻	天恵	松ヶ島	藍	
先場所 9勝6敗	先場所 3勝12敗	先場所 5勝10敗	先場所 5勝2敗	先場所 3勝4敗	先場所 5勝2敗	先場所 5勝2敗	先場所 3勝4敗	先場所 1敗6休	先場所 2勝5敗	先場所 2勝5敗	先場所 3勝4敗	先場所 4勝3敗	先場所 2勝5敗	先場所 休場	先場所 2勝5敗	先場所 2勝5敗	先場所 3勝4敗	先場所 3勝4敗	先場所 2勝5敗	
しっかりと自分のやべき相撲が見えていた。左手の使い方をきっちり磨いて、土俵際でも焦らず冷静に戦って一度跳ね返された地位で今度こそ勝ち越したい。	精神面の悪いところがあったと出た。立ち合いの鋭さを磨き、冷静さは持ちながらも自分らしく思い切りよく攻めまくる相撲で先場所の借りを返したい。	十両から一場所落ちて悔しい。いい勉強をさせてもらって、この課題を克服してすべしと戻るよう必死にやる。	前に出て勝つ理想の相撲を目指しながらも、怖がらず自信を持って思いきった自分の相撲を取りたい。	思っていた以上に前に出る力がなく力不足を実感した。押す力を増し得意の左四つで前に出る相撲を磨きたい。	前に出る相撲を磨き、土俵際の逆転を許さないためにもしっかりと稽古で鍛えて名古屋場所に出たい。	よい緊張感の中で自分らしい相撲を取ることができた。前に出る力をつけて自信を持って幕下で勝ち越したい。	最後の一番だけ相撲が取れた。その感覚を忘れず、基礎運動を大事に今場所こそ優勝するつもりでやる。	気合いを入れ過ぎて無理な相撲で怪我をしてしまった。リハビリを頑張って早く土俵に立てようと思う。	先場所は力負けの相撲が多く、思いどおりにいかなかった。今場所は落ちてしまった番付を取り返したい。	勝った一勝は当たって中に入る相撲が取れた。もっとしっかりと自分の相撲が取れるよう稽古に励みたい。	しっかりと基礎運動を体作り、強い気持ちを持って先に攻めて前に攻める相撲で地元場所に出たい。	先場所は勝ち越せたが最後に負けしてしまった。今場所は最後まで気を抜かず稽古で勝ち越せるよう頑張りたい。	メタリック面がよくなってきた。稽古に精進して自信をつけ、冷静な頭で稽古場のような自分の相撲を取りたい。	回復は順調で早く稽古に慣れていきたい。復帰と怪我の再発防止のため、きっちり訓練をしながら準備している。	相手を集中しきれず負け越してしまった。しっかりと返しを掴んで今場所は勝ち越し以上を狙っていく。	体調管理をしっかりして立ち合いから自分の形になれるよう稽古で稽古場の稽古に積極的に参加して、特に立ち合いを磨いて名古屋場所では勝ち越せるよう頑張りたい。	いよいよ稽古場では勝ち越せるよう頑張りたい。	よやくと稽古場では勝ち越せるよう頑張りたい。よい立ち合いをし、しっかりと前に出て勝ち越せるよう頑張りたい。	本場所では稽古場の動きが出来なかった。米場所は稽古以上の相撲を取り、初勝勝ち越せたい。	

高田川親方の喝。竜電と白鷹山は全体を通して相撲がかみ合わずバラバラだった。竜電は稽古場で強くなった分、本場所勝てない相撲を取ってしまった。その反省を活かされればもう一つ強くなる。白鷹山は相撲の怖さ、厳しさを初めて感じとっただろう。千秋楽最後の一番、日頃から稽古している竜電は勝ち、白鷹山は負け。苦しさの向こう側にいく程の日頃の鍛錬をしている者は、最後の最後の追い詰められた時に勝てる。

高田川部屋 激励会
平成30年7月1日(日) 午後6時 開宴
高田川部屋 千秋楽祝賀会
平成30年7月22日(日) 午後6時30分 開宴
※会場は両日とも高田川部屋 名古屋道場(会費制)
お問い合わせは、ショートメールにて
行司 式守 勘太夫まで 090-3215-6524



高田川親方の喝